

# 沖繩キリスト教短期大学報

那覇市首里当蔵町3-6-1  
 学校法人 沖繩キリスト教学院  
 発行人 瀬底正一  
 編集人 学報編集委員会  
 印刷所 協栄印刷株式会社  
 電話 33-4853

## 事務局より

### 国庫補助要請について

去る十月に理事長および学長が沖繩の他の短期大学の関係者とともに上京し、関係官庁及び団体に国庫補助要請の陳情をしてまいりました。その時に手渡した陳情文をここに再掲して御報告にかえさせていただきます。

「沖繩の施政権返還にともなう二短期大学の充実のための公平な国庫補助について(陳情)」  
 私ども沖繩の二短期大学は、これまでの特色ある教育と実績が認められ、施政権返還後もそれぞれ独立した短期大学として公認されたことを喜びとしております。私どもは教育環境を整備するため復帰後も日夜最大の努力を払い続けておりますが、多額の資金を要するにもかかわらず、自己財源が極度に乏しく非常な困難につき当っております。

この工事は七月完成の予定が長びきようやく十月に完成し、後期の授業から使用してあります。今後は内部の施設及び備品等を充実させていく計画です。さしあたってピアノ室の数だけは非ピアノを揃えたいと考えています。又階段教室には視聴覚関係並びに音楽関係の施設設備が計画されております。

## 建築状況

### 1 2号館4階増築

創刊号で御紹介した校舎の増築(二号館四階、八四坪)と、新築(三号館、二階建一四四坪、但し将来四階まで増築可能)工事のその後の進行状況を報告いたします。

### 2 岩崩れ対策について

岩崩れの安全対策には四ヶ月を要しました。崩れた場所が民家に近いこと、また崖下の足場の悪いところで作業の困難が予想されることなどが主な理由ですが、十分に安全対策を取りながら崩れた岩を撤去するための地盤調査を徹底的に行いました。これと並んで校地の整地及び擁壁の設計もでき、ようやく十二月初めから着工する段取りになりました。皆さまに御心配いただきましたことをあらためて感謝いたします。なおこの工事は来年三月完成の予定であります。

### 3 岩崩れ対策について

学報の第二号でお知らせした岩崩れの件でいろいろと関係者に御心配と御迷惑をおかけした次第ですが、その後安全対策にかなり時間をとられ、3号館の建築はその間中止されました。しかし急遽の処理作業に支障をきたさない部分(2号館寄りの校舎の部分、約半分)だけ建築をするという条件です。残りの半分は、岩崩れの工事が終了次第、引き続き工事が進められます。以上の結果、3号館については2号館寄りの半分が来年三月までに出来上り、後半分は来年五月頃完成予定です。

### その後の募金状況

第二号で八月末現在の御報告をいたしましたのがその後十一月まで募金状況について総額のみ中間報告をいたします。なお詳細は第四号に掲載させていただきます。

(9月1日～11月30日)	
日基	取扱い
教団	964,105
教会	115,346
個人	151,961
計	1,231,412
短大事務局	取扱い
計	1,037,076
合計	2,268,488
	25.00
	25.00

### 特別給付奨学金について

通貨交換の際、当短大にも一ドル対三六〇円のみかえの収入を保証された学生と三〇〇円の学生が生じ、このことは当然後期授業料のよみかえ額の問題へと波及しました。三六〇円の立場をとる理事会と三〇〇円を主張する学生会。その差額は一人あたり約六千円でした。

幾度にもわたる意見交換の結果四五万円(特別給付奨学金)を用意すること。三〇〇円の学生に調査の上差額六千円を給付し、残金が出れば一般奨学金に組み入れる条件で問題を解決することができました。

関係会		同窓会		後援会関係	
二子子子子子子子子子子	3.50	美子子子子子子子子子子	10.00	雄子松林重正次	130.00
一子子子子子子子子子子	15.00	夜子子子子子子子子子子	50.00	信か重善政淑長憲南	45.00
二子子子子子子子子子子	18.00	洋裕小知弘安敏栄佐孝	5.00	原原根嘉里垣波袋里	100.00
三子子子子子子子子子子	2.00	本洲味袋島城田嶺城嘉嘉	5.00	上上仲比宮新伊島新	10.00
四子子子子子子子子子子	20.00	大外嘉崎屋仲玉嘉桃照石具	5.00		10.00
五子子子子子子子子子子	3,000	城間教原久村城教原屋念嶺堅	5.00		10.00
六子子子子子子子子子子	1,550	菊久慶エト節節善る節翠和興	5.00		5.00
七子子子子子子子子子子		志波洲洲場屋城	100.00		5.00
八子子子子子子子子子子		具伊上系田照金	6.00		6.00
九子子子子子子子子子子		江子子子子子子子子子子	3.00		3.00
十子子子子子子子子子子		盛朋和佳治千好	5.00		5.00
十一子子子子子子子子子子		計	6.00		6.00
十二子子子子子子子子子子		計	393.50		4,550
十三子子子子子子子子子子					
十四子子子子子子子子子子					
十五子子子子子子子子子子					
十六子子子子子子子子子子					
十七子子子子子子子子子子					
十八子子子子子子子子子子					
十九子子子子子子子子子子					
二十子子子子子子子子子子					
二十一子子子子子子子子子子					
二十二子子子子子子子子子子					
二十三子子子子子子子子子子					
二十四子子子子子子子子子子					
二十五子子子子子子子子子子					
二十六子子子子子子子子子子					
二十七子子子子子子子子子子					
二十八子子子子子子子子子子					
二十九子子子子子子子子子子					
三十子子子子子子子子子子					
三十一子子子子子子子子子子					
三十二子子子子子子子子子子					
三十三子子子子子子子子子子					
三十四子子子子子子子子子子					
三十五子子子子子子子子子子					
三十六子子子子子子子子子子					
三十七子子子子子子子子子子					
三十八子子子子子子子子子子					
三十九子子子子子子子子子子					
四十子子子子子子子子子子					
四十一子子子子子子子子子子					
四十二子子子子子子子子子子					
四十三子子子子子子子子子子					
四十四子子子子子子子子子子					
四十五子子子子子子子子子子					
四十六子子子子子子子子子子					
四十七子子子子子子子子子子					
四十八子子子子子子子子子子					
四十九子子子子子子子子子子					
五十子子子子子子子子子子					
五十一子子子子子子子子子子					
五十二子子子子子子子子子子					
五十三子子子子子子子子子子					
五十四子子子子子子子子子子					
五十五子子子子子子子子子子					
五十六子子子子子子子子子子					
五十七子子子子子子子子子子					
五十八子子子子子子子子子子					
五十九子子子子子子子子子子					
六十子子子子子子子子子子					
六十一子子子子子子子子子子					
六十二子子子子子子子子子子					
六十三子子子子子子子子子子					
六十四子子子子子子子子子子					
六十五子子子子子子子子子子					
六十六子子子子子子子子子子					
六十七子子子子子子子子子子					
六十八子子子子子子子子子子					
六十九子子子子子子子子子子					
七十子子子子子子子子子子					
七十一子子子子子子子子子子					
七十二子子子子子子子子子子					
七十三子子子子子子子子子子					
七十四子子子子子子子子子子					
七十五子子子子子子子子子子					
七十六子子子子子子子子子子					
七十七子子子子子子子子子子					
七十八子子子子子子子子子子					
七十九子子子子子子子子子子					
八十子子子子子子子子子子					
八十一子子子子子子子子子子					
八十二子子子子子子子子子子					
八十三子子子子子子子子子子					
八十四子子子子子子子子子子					
八十五子子子子子子子子子子					
八十六子子子子子子子子子子					
八十七子子子子子子子子子子					
八十八子子子子子子子子子子					
八十九子子子子子子子子子子					
九十子子子子子子子子子子					
九十一子子子子子子子子子子					
九十二子子子子子子子子子子					
九十三子子子子子子子子子子					
九十四子子子子子子子子子子					
九十五子子子子子子子子子子					
九十六子子子子子子子子子子					
九十七子子子子子子子子子子					
九十八子子子子子子子子子子					
九十九子子子子子子子子子子					
百子子子子子子子子子子					

## 1972年の 降誕祭を迎えて

金城重明

私共は一九七二年の年も、主イエス・キリストの降誕節を迎えた。クリスマスは毎年やってくる。然し一九七二年と言う年は再び来ない。正に一回的であり歴史的事である。

一九七二年の降誕祭とは、繰り返すものと繰り返さないものとを区別する。繰り返すものは、決して宇宙的自然的法則としての円環運動ではない。繰り返すものと繰り返さないものとを区別する。繰り返すものと繰り返さないものとを区別する。繰り返すものと繰り返さないものとを区別する。

従ってクリスマスとは、単なる永遠的超越的出来事でもなく、亦単なる史的出来事でもない。それ故に、十二月二十五日と言う日に第一義的意味がある訳ではない。クリスマスとは、永遠なる者が時間の中に、様々な問題を内包する人間の歴史の真只中に、具体的人間として誕生した歴史的事である。復帰への願いは、人間の解放と平和への願いである。復帰は正にキリストの福音と深く関わり

(一・一四)と証言している。言の受肉、神の子の誕生は、神が苦悩と不義と矛盾に満ちた人間の歴史的事を、自らの歴史として背負われた大いなる一回的出来事に他ならなかった。

イエス・キリストは今から一九七二年前、ユダヤのベツレヘムに生を受けられた。主は決して普通の人間として誕生したのではない。具体的ユダヤ人として生れた。そして当時のユダヤはローマの属国として、その支配下にあった。民は解放者メシヤの到来を切望した。救い主は地上的力を身に帯びた他律的な解放者ではなかった。然し神に敵対する諸々の権威権力からの解放者であった。クリスマスとは、予言者の伝えた「貧しい者に福音を宣べ伝えることをゆだね、わたしをつかわれて心のいためる者をいやし、捕われ人に放免を告げ、縛られている者に解放を告げ」(イザヤ六一・二)の所の喜ばしい福音に他ならない。

然し人間の成すことは凡て不完全であり、それは積極的に自己追求、支配欲の実現ではない。復帰も例外ではない。私共は人間のなにもに絶望する事によって、神のなにもに新しい望みと力を見出す。ここで誤解してはならない。人間のなにもに絶望し、神のなにもに望みを持つとは、決してこの世の歴史的事から、聖なる安全な宗教的領域に逃避する事ではない。

キリストは、人間の世界が暗黒に閉ざされていたから、世の光として、命を失ったから命として到来した。キリストは、一切の人間の破れ、苦悩を自らのものとして引き受ける為に、人の子となられた。神から遠い者にこそ、神の愛と福音が必要なのである。キリストに於いて人間の歴史が神の歴史、救いの歴史となる。

私共は一九七二年のクリスマス、他の何処に於いてでもなく、アジアの中の日本、日本の中のこの沖繩で迎えているのである。一九七二年は、私共にとり、復帰と言う歴史的出来事であった。戦争戦後二七年の犠牲と重荷を、自らの意志とは無関係に、背負わされて来た。そこには解放への叫びと平和への希求があった。然し実現した所の復帰は、願いを求めたものとは程遠いものであった。復帰に唯一の望みを託した者には、失望の念が大きい。沖繩の復帰が、施政権領土返還から人間回復へと、その内容が深化された事の意味は測り知れないものがある。復帰への願いが、人間の解放と平和への叫びであったとすれば、復帰は正にキリストの福音と深く関わり

一九七二年の降誕祭を迎えると言う事は、この時点で私の周囲に横たわっている様々な問題を、自らの課題としてキリストに在って担い、キリストの福音の光が充分に射すように、一つ一つの障害物を取り除いて行く働きに参与して行く決意をすることに他ならない。見える力の支配によってではなく、キリストが人々に任せ、自らを与えることにより、人類に新しい命と生きる方向とを与えられたるしがクリスマスの出来事なのである。

キリスト教教授  
日基教団首里教会牧師

十五年前のこと

松村克己

編集者からお手紙を頂いて、もう一昔半まえのこととなった学院創立の頃のことを思い出して...

旅券の日付を見ると昭和三十一年二月十八日となっています。一九五七年のクリスマス前でした。

「夜明け前」、これが当時の沖縄の印象に一貫して私の記憶に残る...



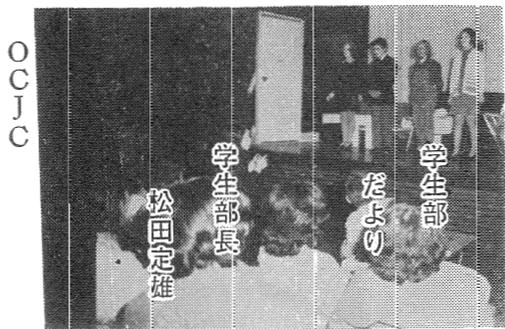
「夜明け前」の講話は週四日、学校での「哲学」の講話は週四日、ジュールのつんだものでした。

ることばです。夜明け前の「静けさ」もこの中に含まれていて...

一つか二つの講時でしたが、教会関係の集会、一般の講演会や琉大や沖縄大学の学生関係の会合のほかに、沖縄を知ってほしい、あるいは見せてやりたいというお心持ちから、随分精力的に各地を案内して...

想 『My my やかな祈り』 随 比嘉 盛二郎 二年ほどまえ、箱根で開かれたある講習会に参加した折、間の日曜日を東京に出て富士見町教会の礼拝に十数年ぶりに出席する機会を得た。

も快調で、朝ごとの祈りの中で私に学院をめぐる方々のことを思い出させてくれます。(一一・二五) (関西学院大学教授)



OJCJ

キャンプをおえて

準備委員会、運営担当の皆さんの努力と参加者の協力によって、今年のO.C.J.C.キャンプも有意義に終ることが出来た。

今年に比べて多く、全学生の約三分の二が参加し、教師と学生がひびき交えて語り合う事の出来る素晴らしい集いでありました。

来る保育、教師の養成を考えなければなりません。そのためには幼児教育の面から社会の状況を絶えず正確に認識し、対応し得るよう心がけねばならないでしょう。

英語科については、英語が国際語として世界的に評価されている今日、沖縄だからといって支配者の言語という観点からのみ考えるのは、きわめて一方的な考え方であって、より広く、あらゆる文化に接するために英語教育は必要であり、大切なことである、との意見の一致を見ました。

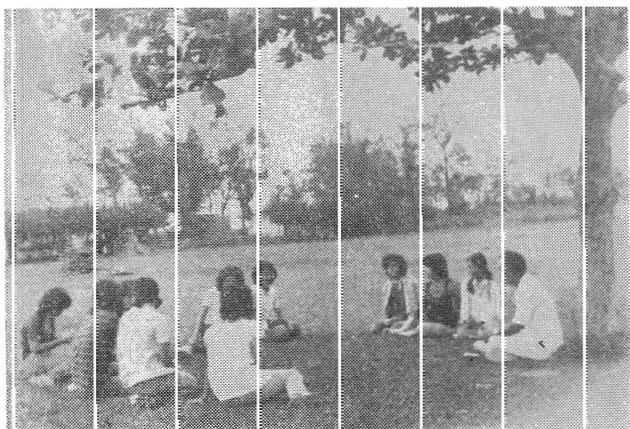
今年のキャンプは参加者が、例年に比べて多く、全学生の約三分の二が参加し、教師と学生がひびき交えて語り合う事の出来る素晴らしい集いでありました。

十一月二十五日、二十六日の両日学校行事の一つとして、学院祭が開かれました。最近の学院祭は、クラブ活動の発表会的な性格

になっていくように思われます。したがって、保育科の学習との関わりでの、児童文化サークルの中の各種研究グループがその中心になっており、英語クラブしかない英語科にとっては、ほとんどバザールを開くしかプログラムが無い状況です。

今年はまだサークルの反省会に出していないのですが、昨年いくつかの反省会に出て、多くの事を知ることが出来ました。

しかし他面、内容的に学院祭そのものが行き詰まっているのではないかと考えられます。



に考えなおしてみる必要があるのではないのでしょうか。サークルの内容を深めるために教師が参加し、その分野での地域に於ける最高の研究の場に高めていく事、従って学習活動と密接につながるものでなければならぬと思えます。

◇ ◇ ◇

図書館だより

館長 外間 恵子

短大図書館完成のため皆様から御協力をお願いしてきましたが、その結果を報告致します。

基庫総冊数 10,860 当図書館蔵書冊数 11,761

八月一日以後蔵本に御協力して下さいました方々。(十一月二十九日現在、雁不同、勢利隆) 日本基督教団出版局 キリスト教視聴覚センター 頌聖短期大学図書 山城馨 日本盲人キリスト教伝道協議会 柏井光蔵 菊地武美 佐々明 野村実 Mrs. & Miss Venters Jr. 近藤善美 Mrs. L.C.M. Smythe 春原三三 洛北教会 百藤文明 那覇ルーテル教会 佐藤吉勝 ICU教会福祉委員会 荒井俊次 青木茂 戸藤義治 日キ教団富山新庄教会 藤原愛義 間瀬啓允 石垣繁子 野村実 大塚野百合 三品要次 青山学院大学理工学部 衣笠泰生 北村則久 工教大生図書館 中沢治樹 海老沢有造 中村学園大学 新城捷也 島野喜道 仲真佳代子 新垣和子 水野誠 関田寛雄 長谷川浩一 手塚喬介・リリ子 桑さくら子